

## 第4学年 図画工作科授業実践事例

### 1. 活動の指針(活動を通して育てたい力)

dーよさ・美しさを感じる心

身近な造形作品、及び環境や材料などに関心をもって見たり表したりすることで、自分らしい感じ方や見方を深め、自分の表現に生かしていくことを大切にしていく。

### 2. 題材名 「太郎さんに遭遇」(鑑賞)ー10時間扱いー

### 3. 活動の指針と題材のかかわり

岡本太郎は、造形表現だけをとっていても絵画、彫刻などの枠にとらわれず、思うがままに表現している。その作品は独創的で、とても自由である。「なんだろう?」と思わせる不思議な表現でありながら、どこことなくユーモラスで愛嬌がある子どもたちが親しみやすい作品が多い。子どもたちがその作品たちと遭遇することで、好奇心をかきたてられ、自分らしい感じ方や見方で作品と向かい合う。「なんだろう?」を解決するために、作品に表れている要素から情報を得ようとする。これが、積極的な鑑賞につながると考える。また、鑑賞の事前学習として、ビデオ鑑賞やアートカードでの活動を取り入る。子どもたちにとって、“自分が知っている作品が美術館に展示されている”ということは意外と経験できないことである。事前学習で作品に馴染んでいることで、より作品への興味関心が高まると思われる。

鑑賞にあたっては、美術館職員と連携し、事後の創作活動も意識した鑑賞を行うようにする。鑑賞時には、子どもたちの感じたことを重視した鑑賞交流を行い、自由に感じる楽しさを体験できるようにしたい。

鑑賞活動をすることで子どもたちは造形作品から、多くのことを感じ取っている。それは、その後の造形表現活動にも影響すると考えられる。今回の鑑賞作家は岡本太郎であり、その表現概念を覆すような物が多い。その表現から自分なりの見方で感じ取る活動が、子どもたちの感覚を刺激し、自由な発想につながると考えた。今回の作品は、マスクで喜怒哀楽を表現する。感情のイメージをそれぞれの感覚で表現するという活動に、鑑賞で得た形や色からのイメージをいかせると思う。感情という形のないものがテーマであるため、顔につけるマスクでありながら、顔という概念を超え自由な発想ができると考えた。

#### 〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

#### 4. テーマにせまるための具体的な手だて

##### (1) 視点1「思いをふくらませる」

- 子どもたちにとってあまりなじみのない岡本太郎について、ビデオ教材を使い、人物像や活動、作品を知ることで、作品に対する興味を高めたい。
- アートカードでの活動を通して、作品に親しみ、「気になる」「好き」「嫌い」など、作品に対する感想や思いをもつ。また、カードゲームを進める中で、作品を見る視点を誘導するようなルールを盛り込み、より細かく作品を見て、新しい気づきやより深い感想をもてるようにする。
- 実際に美術館を訪れ、本物の作品を見る。アートカードで親しんだ作品については、カードと実物の大きさや、受けるイメージの違いに驚きや、新しい発見があると思われる。カードで気に入った作品は実物を見ることで更に思いがふくらむ。作品にあまり興味をもてない子どもにとっても、カードで見て知った作品が展示されているだけでも「あ、これ知ってる！」と
- 鑑賞活動からつなげることで、鑑賞で広がった発想を造形にいかすことができる。形や色から感じるイメージなど鑑賞時にマスクの発想につながる視点で見ることで、より発想をふくらませることができると考えた。
- 喜怒哀楽をテーマにすることで、お面の概念から離れ、イメージの幅を広げることができると考える。また、顔は感情を最もよく表す部分であるので、そこからイメージの方向性を考え、更にイメージをふくらませて感情をより強く表現できるように構想をねるようにしたい。

##### (2) 視点2「思いをかたちにする」

- 喜怒哀楽を表す表情からイメージし、それを形にしていく。鑑賞活動で形や色から受けた印象を生かすことで自分のイメージに合った形づくりができると考えた。
- 紙を貼り合わせる張り子の技法で、イメージした形を比較的容易につくりだすことができる。また、お面状に、薄く形をつくることにも適した技法だと思われる。子どもの思いがふくらみ、大きな作品になっても軽く、形をしっかり保つことができ、使う材料の増減にも対応できる。

#### 5. 題材のねらい

- 美術作品を鑑賞する活動を通して、自分らしい感じ方や見方で、作品に対する思いや自由な感想をもつことができる。
- 喜怒哀楽をテーマにしたマスクづくりに、自分のイメージと鑑賞活動を通して感じたことを生かし、自分なりの発想でマスクの構想をねりマスクをつくることができる。

#### 6. 題材の評価規準(重観点◎)

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○喜怒哀楽を形や色で表すことを楽しもうとしている。	◎喜怒哀楽という感情を表すイメージを考えることができる。 ◎考えたイメージをマスクという形で表現できる。	○張り子の技法を使い自分のイメージに合わせてつくったり、彩色したりしてマスクに表すことができる。	◎作品に親しみ、自分なりの感覚を生かして作品のよさを感じることができる。

#### 7. 準備

〔児童〕 絵の具、ホチキス、新聞紙

〔教師〕 美術館との打ち合わせ、貸し出し教材（ビデオ・アートカード）、工作用紙、半紙、のり、ニス

8, 指導と評価の計画 (10 時間扱い)

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】 評価方法
1 次 20 分 30 分 25 分	<p style="text-align: center;">岡本太郎ってどんな人</p> <p>○岡本太郎を紹介するビデオを鑑賞し、人物像や活動について知る。</p> <p style="text-align: center;">作品カードで遊ぼう</p> <p>○作品カードで遊ぶ ☆神経衰弱をやろう。 ☆じじぬきをしよう。</p> <p>☆連想ゲームで遊ぶ ★ヒントが思いつかない。</p>	<p>◆岡本太郎美術館を見学することを伝え、岡本太郎について知っている事をきく。</p> <p>◆岡本太郎がやったこと、つくったものがビデオで紹介されていることを話し、鑑賞する。</p> <p>◆カードには岡本太郎の作品が使われていることを話し、カードを使って遊べるように働きかける。</p> <p>◆自由に遊び、作品に親しんだら、教師がゲームを決めみんなで同じゲームをする。</p> <p>◆《連想ゲーム》のルールを説明しみんなで遊ぶ。 広げたカードから親が作品を一つ選び、親のヒントで子がどのカードか当てるゲーム。</p> <p>◆1 ヒントでは当たらないときは、ヒントを増やし、作品をしぼれるようにする。</p> <p>◆ヒントが考えられない子どもには、作品の特徴や色、形に着目してみるようにうながす。</p> <p>◆教師がヒントを出し、全員で当てる。着目して欲しいポイントに目が向くようなヒントを出す。</p>
10 分	<p style="text-align: center;">作品について考えよう</p> <p>○作品を選び、感想をかく。 ☆作品を選び、自分の思いをワークシートにかいている。 ★作品が決まらない。</p>	<p>◆カードから気になる作品を選び、ワークに思いを書く</p> <p>◆好きな理由、嫌いな理由、知りたいことなど感じたことを大切にするように伝える。</p> <p>◆広げたカードを見ながら、気になる作品について聞き、気になった理由を一緒に考える。</p> <p style="text-align: center;">【鑑】 つぶやき・ワークシート</p>
2 次 90 分	<p style="text-align: center;">美術館へ行こう</p> <p>美術館職員の誘導で館内を見学。 感想交流や作品についての解説を聞くなどしながら鑑賞する。 作品についての自由な感想を引き出すよう促す。 子どもたちに感じることや思うことは自由で楽しいものだと感じられるようにする。</p> <p>○美術館で作品鑑賞をする。 ☆進んで作品の鑑賞をしている。 ○感想交流をする。</p>	<p>◆美術館職員と鑑賞のねらいや事後の造形表現活動につながる視点について打合せをしておく。</p> <p>◆作品から感じたことを自由に発言するように伝える。【関・鑑】 活動の様子・発言</p>

<b>喜怒哀楽からイメージしよう</b>	
<p>3 次</p> <p>3 0 分</p> <p>○喜怒哀楽からひとつイメージを選び、その感情を表すイメージを考える。 ☆感情から浮かぶイメージを集める。</p> <p>★テーマにするイメージが決まらない。</p> <p>○イメージしたものからマスクの形や色を考える。 ☆イメージから形と色を考える。 ・「楽しいって丸い感じがする。」</p> <p>★形や色が決まらない。</p>	<p>◆ 喜怒哀楽からイメージして、その感情を表すマスクをつくることを伝える。</p> <p>◆ マスクではあるが、顔に合わせて考える必要はなく、イメージに合った表現にしてよいことを伝える。</p> <p>◆ 表情で表しやすい感情を一緒に考える。</p> <p>◆ イメージで浮かんだものを形や色にするとどんな物になるのか一緒に考える。</p> <p style="text-align: center;"><b>【関・発】 発言・アイディアスケッチ</b></p>
<b>マスクをつくろう</b>	
<p>○考えたマスクを形にする。 ☆大きさや全体の形を決める。 ・「力強いイメージだから大きくしよう」</p> <p>★全体の形をイメージできない。</p> <p>☆レリーフ状に骨組みを組んでいく。 ・「鼻のところをとがらせたいな」 ・「丸いドーム型にしたいな」</p> <p>★立体に骨組みが組めない。</p> <p>○紙を貼っていく。</p>	<p>◆ 張り子のマスクづくりの手順を考える。</p> <p>◆ 工作用紙のつなぎ方や形の作り方を伝える。</p> <p>◆ 半立体になるため、正面から見た大きさや形だけではなく、凹凸など立体的に考えるようにする。</p> <p>◆ 工作用紙のつなげ方を実際に見せ、イメージした形に近づけられるようにする。</p> <p>◆ 新聞紙で骨組みを覆いながら、ある程度の厚みになるまで新聞紙を重ねるようにし全体の形を整えるように助言する。</p> <p>◆ 新聞の上に半紙を重ね張りし、新聞紙が透けないように伝える。</p> <p style="text-align: center;"><b>【発・技】 作品・活動の様子</b></p>
<b>色をつけよう</b>	
<p>○できあがったマスクに色をつける。 ☆どんな色にするかイメージをふくらませている。</p> <p>★色が思いつかない。</p>	<p>◆ イメージとできたマスクからどのように彩色するのかを考える。最初の構想から変わってもよいことを伝える。</p> <p>◆ 構想をもとに形やイメージに合った色を一緒に考える。</p>
<b>仕上げ・作品を鑑賞しよう</b>	
<p>○ニス塗って仕上げる。</p> <p>○友達の作品を鑑賞する。 ☆友達の作品を見て、イメージをふくらませながら鑑賞している。 ・「これは「喜」かな。」 ・「色が感情を表しているね。」</p>	<p>◆ 彩色ができ、乾いてからニスを塗るように伝える。</p> <p>◆ できあがったマスクを見合う中で、友達の作品の思いを考えながら鑑賞するように助言する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【関・鑑】 作品・活動の様子・発言</b></p>